

I 実践

1 人権教育の目標

- (1) 自他の良さを認め合うなどの人権感覚を身に付けるとともに人権意識を育む。
- (2) 正しい見方、考え方、強い意志、豊かな心情をもった生徒を育て、励まし合い、助け合う人間関係を培う。

2 人権教育推進上の具体的課題

- ・一人一人が個人として尊重され、互いに認め合い励まし合える人間性豊かな学校づくりを推進する。
- ・異学年、小学校、地域との交流活動の充実に努める。

3 実践内容

(1) 朝のあいさつ運動の実施

生徒会役員と各委員会が、毎月、登校時に朝のあいさつ運動を実施しており、小学生や卒業生、教職員、地域の方々に大きな声で元気よくあいさつができています。11月の「いばらき教育月間」では、小中一貫校ならではの取組として、小学生とともにマナーアップキャンペーンを実施し、小・中学生が班を作りそれぞれの校門前であいさつ運動を行った。



【5月・あいさつ運動】



【11月・小中合同マナーアップキャンペーン】

(2) 澄水のつどい

隔年で実施する行事で、今年度から小学校5・6年生も加わって行うことにした。子どもたちは異学年の縦割り班の中で、うどんの汁のレシピを考え、うどん作りと汁作りの係分担をする。当日は地域のお年寄りとともにうどんを作り会食した。地域のお年寄りも楽しみにしている行事である。



【うどん作りの様子】



【会食の様子】

(3) 修学旅行先からの「修学旅行だより・友愛通信」の送付

修学旅行先から、中里地区で一人暮らしをしているお年寄りに、京都・奈良で購入した絵はがきを出す取組である。毎年、3年生の伝統として実施しており、お年寄りからの返信もたくさん届き、温かい心の交流を図ることができた。



【「友愛通信」の作成】



【「友愛通信」の送付】

(4) **特別活動推進事業における「ひまわり学園」訪問**

第1学年の特別活動推進事業の活動の中で、本校は伝統的に「ひまわり学園」の利用者との交流を実施している。利用者の方の体育的活動（屋内・屋外）に一緒に参加したり、職員の方の話を聞いたりすることで、生徒たちの視野が広がり、心の成長が見られた。



【施設の方との打合せ様子】



【自己紹介の様子】

(5) **地区敬老会への参加**

毎年9月上旬に行われる地区敬老会に、本年度は土曜授業として小・中の児童生徒が参加した。代表の生徒が作文を発表したり、地域のお年寄りを席へ誘導したり、飲食物を配付したりと会場係の手伝いを行った。吹奏楽部は地域の楽団「きららバンド」とともに懐かしのメロディーを演奏し、楽しい一時を過ごした。



【会場係をする中学生の様子】



【吹奏楽部と「きららバンド」の演奏】

(6) **認知症サポーター研修会の実施**

認知症サポーター研修会を12月に行った。本来は1年生対象の事業であったが、少人数であることや地域性も考慮して全学年で実施した。認知症は脳の病気であること、認知症の人に対しての接し方等、講師の先生方の話に真剣に耳を傾けていた。教員を交えてのロールプレイでは、楽しみながらも認知症の実態や適切な言葉かけなどについて学ぶことができた。



【講師の先生方】



【ロールプレイの様子】

4 成果

- (1) 毎月実施しているあいさつ運動では、生徒と地域の方々がお互いに声を掛け合うことでよりよい人間関係を作る基盤となっている。また、一貫校として小中合同で行うことにより、9年間の縦のつながりが強くなり、大切な交流活動の一つとなった。
- (2) 修学旅行での友愛通信や地区敬老会での取組では、郷土愛やお年寄りへの思いやりの気持ちを育むことができた。体験活動を通して、世代を超えた心の交流を図ったり、郷土の伝統芸能に触れたり、とても貴重な経験をすることができた。

II 今後の課題

日々の教育活動や学校行事を通して、よりよい人間関係の育成や、地域社会の一員としての自覚を再認識する実践に取り組むことができた。今後も、自他を大切にする感情の育成を図るために、引き続き本校の人権教育の目標である「豊かな心情をもった生徒を育て、認め励まし合う豊かな人間関係」の醸成を目指し、学校生活全体を通して取り組んでいきたい。